



オーストラリア

2013年産豪州マカデミアナッツの収穫は3月から9月まで長期間に渡りますが、1月末にオーストラリア北東部海岸で発生した台風がマカデミア農園に被害を与えた影響と、2月から4月初旬まで産地の広範囲で雨が断続的に降り続き、農園では土壌が非常に湿った状態が続いたため、例年3月初旬から始まる収穫が3週間から4週間ほど遅れてスタートしました。

このため、今期の収穫量を予想する事は例年より難しいといわれていますが、3月時点でオーストラリアマカデミア協会は第一次予想収穫量を昨年並みの3万9千トン程度と発表しました。今年の収穫量は当初、産地での天候が概ね良好だった事から、昨年より増産になるとの見方もありましたが、台風の影響でマカデミア農園全体の10%程度に被害が及んだものと見られており、結果的には昨年並みの予想になりました。

また、収穫がスタートしてからの断続的な雨の影響は6月現在でも続いており、予想されている収穫量は更に減り、3万5千トン程度となる見方が一般的です。

現地相場に関しましては産地の天候が芳しくないものの、昨年からの繰り越し在庫があった事から、3月時点では昨年同時期ほどのタイト感はなく、オープニング価格としては昨年比で、約5%程度値下がりしました。

しかしながら、クルミ、アーモンド、ピーカン同様、マカデミア業界でもついに中国バイヤーによる殻付の買い占めが始まり、他のナッツ類と同様に玉を確保するために、直接農家と交渉し市場価格よりも高めの買い付けを積極的に行なっている模様です。

現地情報によりますと、豪州では昨年比で約3倍の6千トン、南アフリカでは昨年比で約2倍の1万2千トンを買って付けているとの情報です。

また、4月以降も南部の主要産地で断続的な雨が続き、収穫は全く行なえない農家もいる様子です。このため、6月現時点の現地相場に関しましては、昨年並みの価格で推移しています。今後も産地の天候、中国バイヤーの買い付け次第で現地価格が更に値上がりする可能性も考えられます。

南アフリカ

2013年産南アフリカマカデミアの収穫については、昨年末までは主要産地の気候がほぼ良好であり、木の生育も順調であった事から、当初殻付ベースで昨年の収穫量3万4,500メトリックトンと同程度の数量となると言われていました。しかしながら、今年に入り、南アフリカ北東部に位置するマカデミア主産地で豪雨や雹(ヒョウ)などの被害に見舞われ、一部の農園では25%程度の木に被害が及んでいるとの情報が入っています。このため、今期の予想収穫量は3万2,000メトリックトン程度となる模様です。

南アフリカにあるマカデミア農園はオーストラリアの一般的な農園と比べて比較的若木が多いため、今後5年間で収穫量が飛躍的に伸びるともいわれています。また、世界一の生産量を誇るオーストラリア産はここ数年不作が続いているため、上記の通り中国のバイヤーはオーストラリア産と共に、南アフリカ産殻付マカデミアを今年も活発に買い付けを行なっている状況です。このため、南アフリカ産の需要は昨年に続き強含み、現地相場は高値で推移しています。

